



こんにちは。
町長です。

「クライミングによるまちおこし事業」の推進

5月1日より元号が「令和」になりました。新元号の出典は現存するわが国最古の歌集である「万葉集」からとのこと。安倍首相は記者会見で「人々が美しく心を寄せる中で、文化が生まれ育つという意味がこめら

れている」と述べられました。

新しい時代の幕開けに新たな気持ちで小鹿野町の将来像である「文化の香り高く将来に躍動するまち」を目指して、町民の皆様とともに町政推進を図ってまいりたいと存じます。

さて、新年度になり4月から役場組織機構の一部改編を行いました。その目玉として総務課内に「まちづくり推進室」を設置し、町の政策的な課題を町長直轄で推進することいたしました。

まちづくり推進室で取り組む事業の1つとして本年度の新規事業となる「クライミングによるまちおこし事業」があります。クライミングとは端的に言えば岩登りのスポーツで、町にはクライミングで日本有数の二子山があり、その稜線上には新たなクライミングの適地があるなど「クライミングと言えば小鹿野町」と全国的に誇れる発信ができる可能性を秘めています。また、山岳登山では日本百名山の両神山に多くの登山客が訪れています。こうした山岳観光・スポーツが盛んな町であるこ

とを踏まえ、昨年3月末で閉館となった旧埼玉県山西省友好記念館を埼玉県から町が無償で譲り受け、そこをクライミングによるまちおこし事業の拠点施設として再整備を図ることにいたしました。

この施設の具体的活用策としては、小鹿野町内の山岳観光・スポーツ情報などの発信拠点や、2020年の東京オリンピック種目として採用された「スポーツクライミング」に着目し、クライミングウォールなどの施設を設置し、クライミングイベント・講習会等にも対応できる施設として計画しています。また、隣接している国民宿舎両神荘や近隣の薬師の湯、両神農産物直売所などとの連携を図り相乗効果を目指します。

施設の整備に当たっては、専門的知見が必要であることから公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会副会長で小鹿野町観光大使を委嘱した世界的なクライマーの平山ユージ氏や、町と包括連携協定を結んでいる株式会社モンベル、秩父地域内はもとより埼玉県内の山岳団体、クライミング愛好者などと連携、協力をいただきながら進めたいと存じます。また、埼玉県から施設整備の補助金もいただけることとなっています。

この新しいクライミングによるまちおこし事業が地域振興の起爆剤となって観光・交流人口の増大につながるよう進めてまいります。

小鹿野町長 森 真太郎